

有明海水産資源回復技術確立事業*

アゲマキ増養殖技術開発試験 (天然アゲマキ調査)

野間昌平・大庭元気・佃 政則

有明海の重要な水産資源の一つであるアゲマキ *Sinonovacula constricta*は、平成元年から原因不明の大量斃死が発生し、平成6年以降天然資源が激減している。このため、資源回復を目的として、平成8年度から種苗生産及び放流技術の開発に取り組み¹⁾、特に平成21年度からは本事業により、放流技術開発の一環として、稚貝の大量生産・放流を行っている。これら一連の事業では、放流によって母貝集団を創出し、再生産サイクルの構築を目指しており、その効果を把握するため天然アゲマキの生息状況調査を行ったので報告する。

方法

天然アゲマキ調査は、令和2年7月～10月に、有明海佐賀県沿岸域の54地点で、1m×100mの踏査を行い、アゲマキの巣穴開口部を計数した。また、各地点30個を上限として採取し、殻長を測定した。

結果

天然アゲマキ調査の結果を図1に、採取した個体の殻長頻度分布を図2に示す。天然個体は13地点で確認され、鹿島市浜地先で多くみられた。最も多い地点では、2～3個/m²の密度で生息していた。県中東部では、早津江川河口域の2地点、嘉瀬川・本庄江川河口域の3地点でアゲマキの生息が確認された。

アゲマキの殻長頻度分布は、当歳貝と思われる40mm前後の個体が90%以上を占めており、2歳貝以上と思われる殻長約55mm以上となる個体は1.7%に留まった。

文献

- 1) 佃 政則・神崎博幸・津城啓子・福元 亨・梅田智樹・荒巻 裕・伊藤史郎 (2017) : 佐賀県有明海沿岸におけるアゲマキ分布の変遷, 佐有水研報. (28), 47-49.

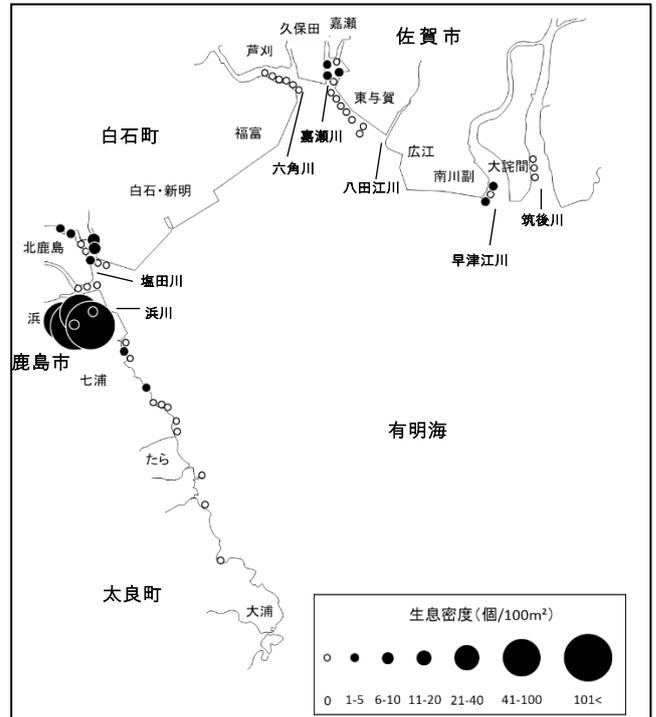


図1 天然アゲマキ調査結果

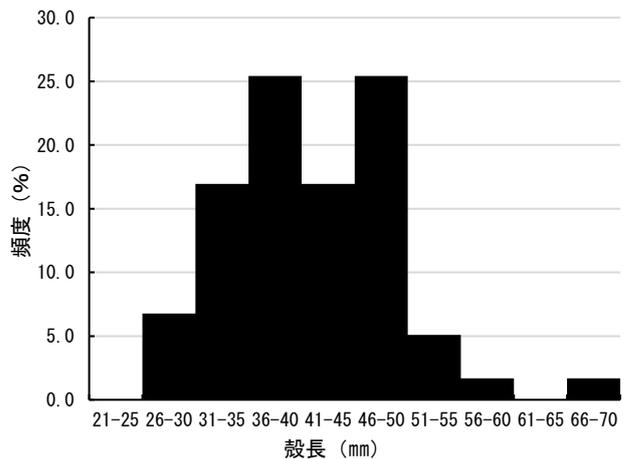


図2 採取個体の殻長頻度分布